

紫のつつじ見頃とさそはれて友と語るも老いのよろこび

(R)

## 芋煮会と里芋・・・

大石田では、里芋の収穫の時期になると、みなさん芋煮を連想します。幼い頃から河原や校庭で行う芋煮会は、学校や子供会、職場やサークルなどの恒例行事となっています。ほとんどの方が芋煮を作れるのは。もちろん、薪を拾ったり、火をおこしたり、材料を切ったり、水を汲みに行ったり、分担作業はありますが、子ども達は大きい人のすることを良く見聞きし、作り方を受け継いでいます。大鍋で掘りたての里芋・牛蒡・ネギと牛肉・蒟蒻・豆腐・きのこを醤油味に煮る「いもこ汁」は、大変おいしく、その味を仲間と共に味わい心一つにしてみました。

本来の芋煮会は、近所や親戚で助け合って重労働の稲刈り(共同作業)に向けて体力をつけるため、また、一つの鍋を囲んで味を分かち合うことで、共同体の結束を高めるものだといえます。(一味同心)

熱帯地域原産の里芋は寒さに弱い作物ですが、夏暑い山形の気候に合うのでしよう。稲の渡来より古く縄文時代に伝わり稲作以前の主食だったと考えられています。親芋、小芋、孫芋の付く里芋は、子孫繁栄の象徴として、豊作祈願の縁起物として雑煮やお祭りの料理に使われてきました。秋の名月には収穫した枝豆や里芋が供えられます。お供えした里芋は「腎臓病にならない」「のどにいい」と家族全員で頂きます・・・

### 草の露白し(くさのつゆしろし)

9月7日～9月11日頃

朝夕、少しずつ涼しさが感じられる時期です。農事は秋野菜を蒔き、越冬の準備に入ります。中秋の名月は枝豆などを月に供えて祭り、月見をします。夕方になると、外では子ども達の「豆あげだがはアー」と家々を回る声が聞こえてきます。豆で達者で暮らせるようにと願いがあったのでしょう。(き)

### 鶺鴒鳴く(せきれいなく)

9月12日～9月16日頃

剪定作業中、ふいに鶺鴒の雛が落ちてきた。巣に戻すと雛は急に鳴かなくなった。すると親鳥が巣の周りを飛び回る。雛は親鳥の後を追う。二羽はやがて視界から消えた。私は鶺鴒の雛の巣立ちを急かしてしまったらしい。

(海藤忠男)

### 玄鳥去る(つばめさる)

9月17日～9月21日頃

彼岸の入りには白いだんごを丸めて高台にのせ、仏壇に供え先祖を迎えます。そして中日には、新米の収穫に感謝し、おはぎを搗いて食べますネ！町内には有名なだんご屋さんがあり、町外からも多くのお客さんがみえて行列がたえません。

厳しい残暑も一段落です。(と)



2014.9.17 里芋畑より

読書会だより③

## 大石田の白露のころ

七十二候より

大石田町立図書館

里芋の葉が広く、大きくなりました。朝露が葉に付き、手で揺らすと、水滴がころころ転がっては、一つに溜まっていきます。露を集めて墨を摺ったもので字を書くと言習字が上達するそうです。

芋の露連山影を正しうす

飯田蛇笏